

経済指標レポート 第211号

(社)関西経済連合会 経済・経営グループ(担当:壺井)

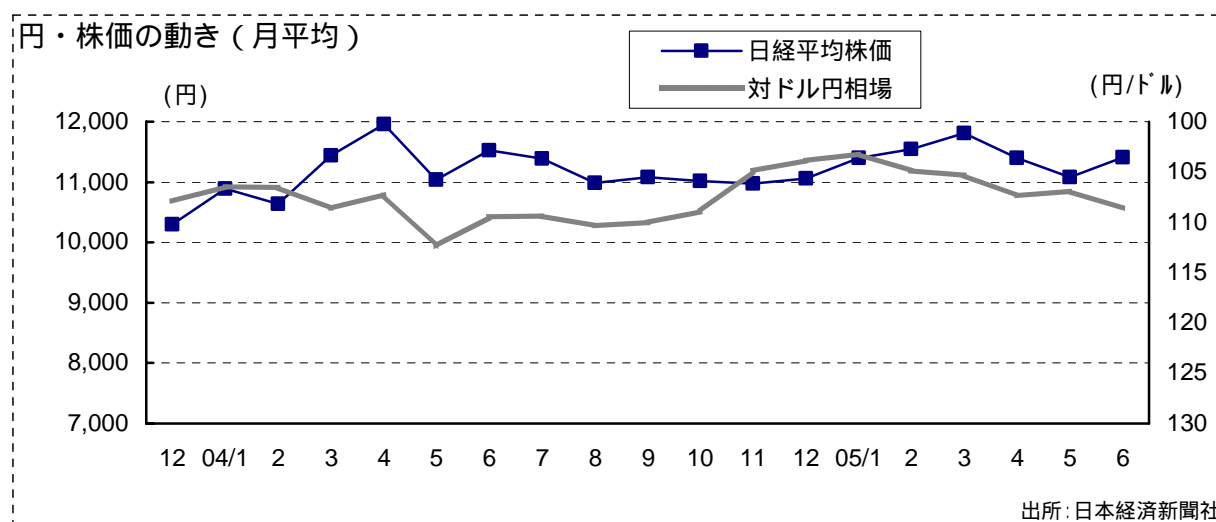
Tel : 06 - 6441 - 0102 Fax : 06 - 6441 - 0443

内閣府が発表した8月の月例経済報告では、日本経済の基調判断として、「景気は、企業部門と家計部門がともに改善し、緩やかに回復している」との見方を示し、基調判断を上方修正した。基調判断の表現から否定的表現を取り除くのは10ヶ月ぶりである。先行きについては、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれている。また、政府・日銀は、ともに景気が「踊り場」から脱却、日本経済が回復の方向に進んでいるとの認識を発表した。個人消費や輸出入などの項目別の表現も上方修正されており、景気の「踊り場」からの脱却は鮮明になった。

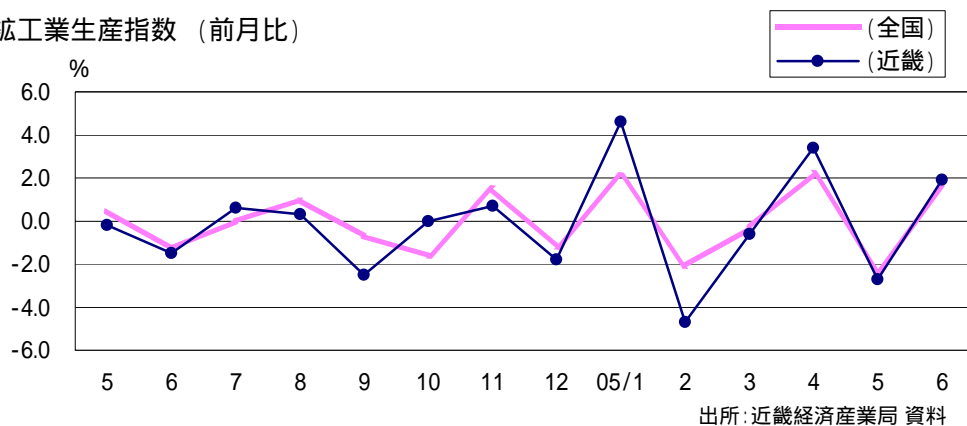
こうした中で、小泉首相は、郵政民営化法案の否決に伴い、衆議院の解散を表明し、総選挙に突入することとなった。今回の一連の政治状況が、堅調に推移している日本経済にどのような影響を与えるかを見極める必要がある。加えて、原油価格高騰の影響にも注目しておかなければならない。石油化学製品、加工食品、物流等ですでに転嫁による値上げの動きが見られ、産業への影響が懸念される。

横ばいが続いてきた輸出も回復傾向にあり、これからが本格的な「踊り場」からの脱却が期待される時期であるが、不安要因を抱えていることも事実である。特に、郵政民営化法案が参議院で否決されたことは、「官から民へ」という構造改革の流れに逆行したものである。総選挙の結果に関わらず、今後とも政治がリーダーシップを一層発揮して、税財政や社会保障制度、地方分権、外交問題など多くの分野での構造改革を継続させることを期待したい。

< 各指標の動き >

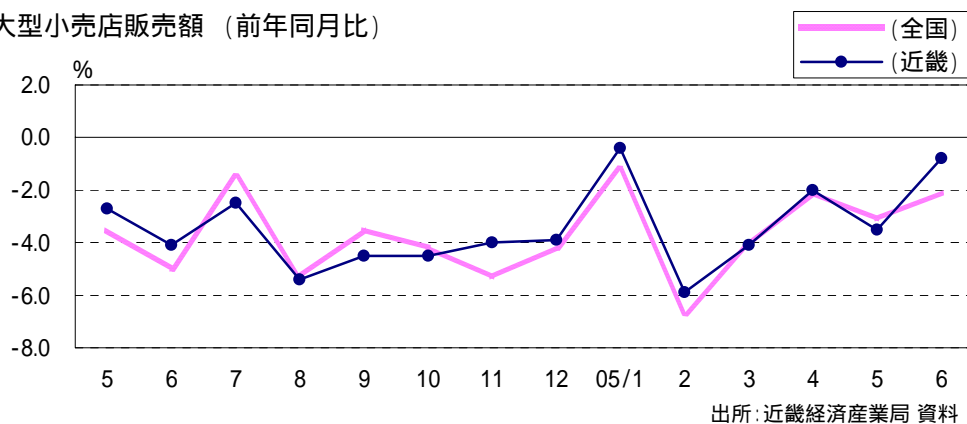


鉱工業生産指数（前月比）



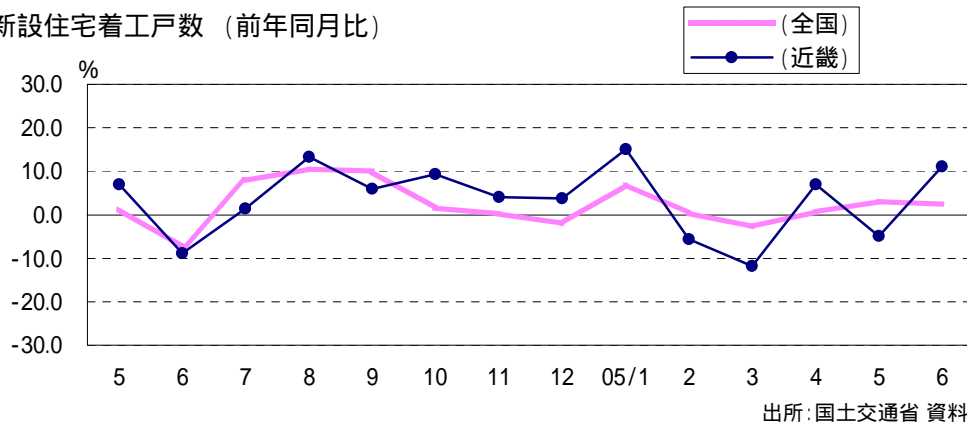
近畿は前月比 1.9%と2ヶ月ぶりの上昇。電子部品・デバイス工業、一般機械工業、輸送機械工業（鋼船・鉄道車両除く）などが上昇に寄与。生産は概ね横ばいで推移。

大型小売店販売額（前年同月比）



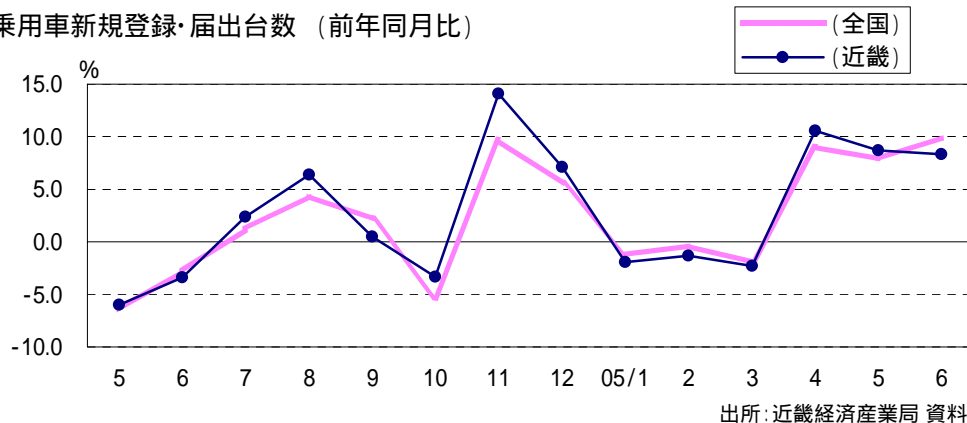
近畿は既存店ベースで前年同月比 0.8%減、16 か月連続のマイナス。スーパーが同 4.3%減で 20 ヶ月連続のマイナスとなっている。

新設住宅着工戸数（前年同月比）



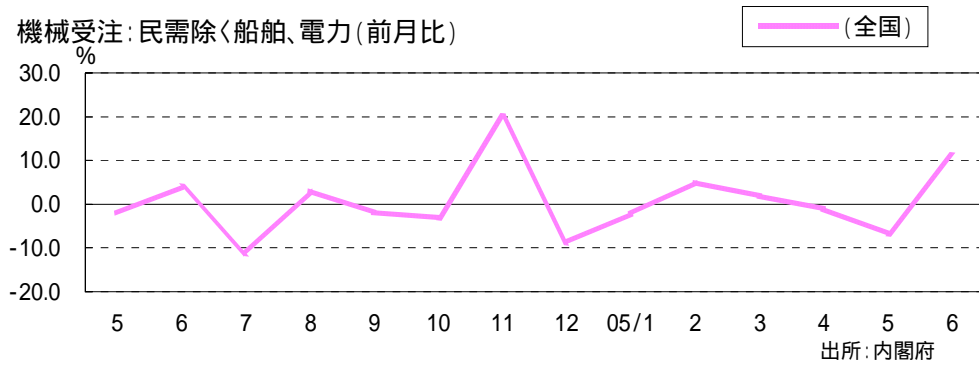
近畿は前年同月比 11.1%増と2ヶ月ぶりに前年を上回った。持家が5ヶ月連続で前年を下回ったものの、分譲住宅が2ヶ月ぶりに、貸家が3ヶ月連続で前年を上回った。

乗用車新規登録・届出台数（前年同月比）



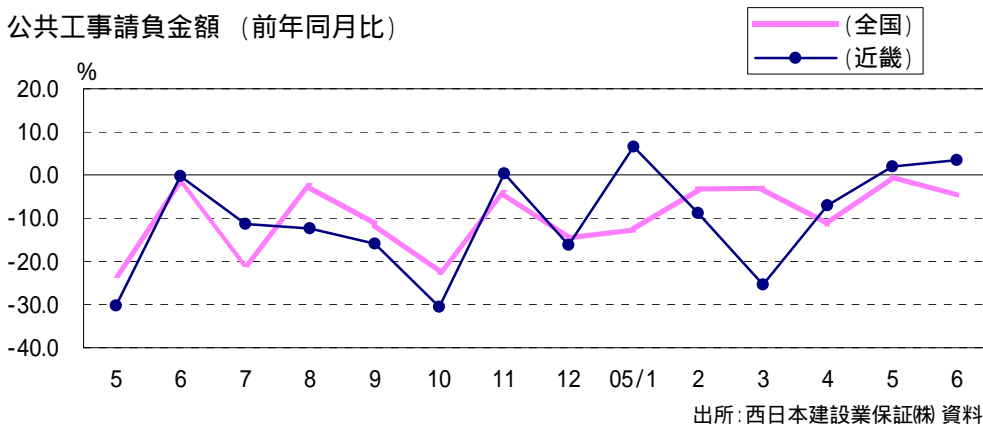
近畿は前年同月比 9.9%増と3ヶ月連続で前年を上回った。普通車が同 2.8%増、小型車が同 14.5%増、軽四車が同 11.0%増で3ヶ月連続でそれぞれ前年を上回った。

機械受注：民需除く船舶、電力(前月比)



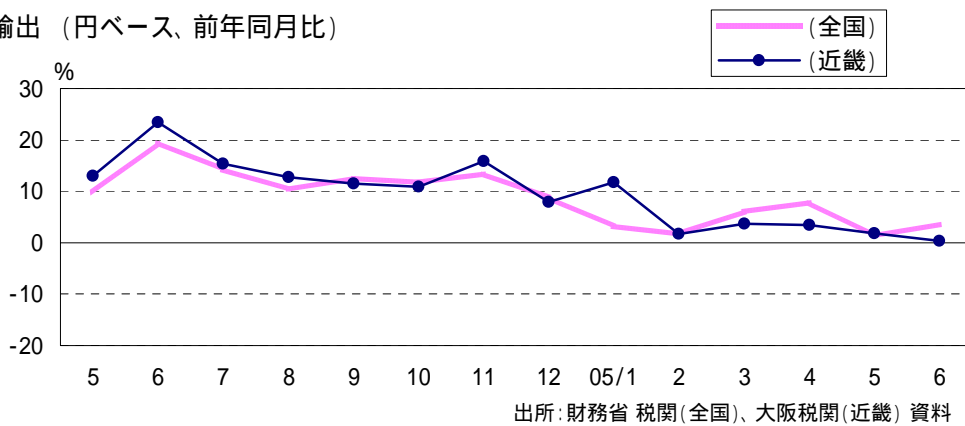
機械受注は前月比 11.1%増となった。業種別の受注は製造業が同 14.9%増、非製造業(船舶・電力を除く)は同 8.0%増となった。

公共工事請負金額(前年同月比)



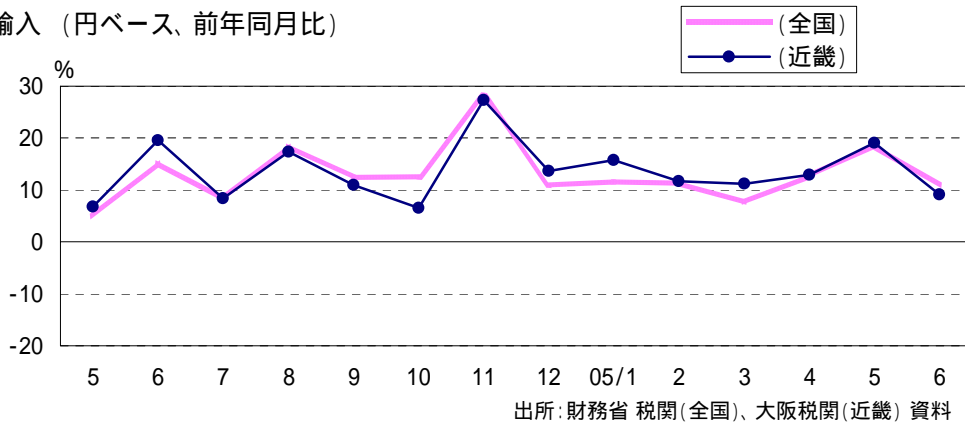
近畿は前年同月比 3.5%増。発注者別では、その他公共的団体で半減、市町村・国で減少となったものの、大阪府における大型継続工事等が寄与し、公団・事業団等、府県で大幅増となった。

輸出(円ベース、前年同月比)



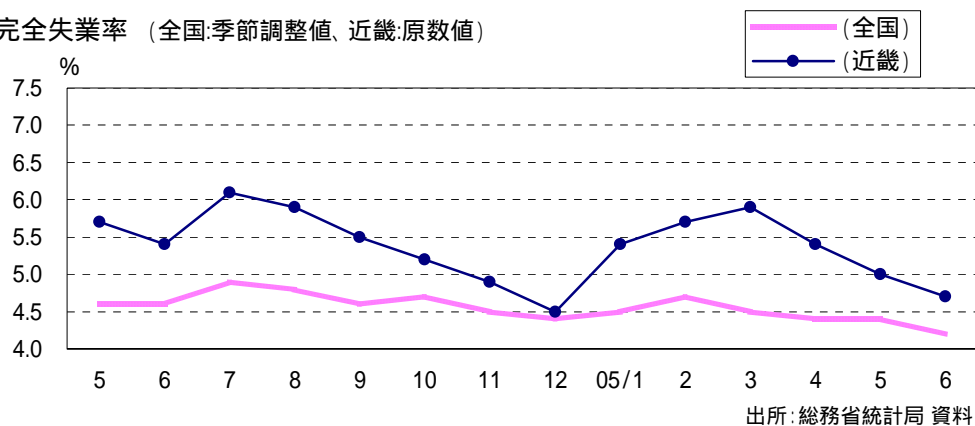
近畿は前年比 0.4%増。39 か月連続のプラスとなり、4ヶ月連続の1兆円超。通信機、事務用機器などが減少したものの、鉄鋼、ガラス・同製品、建設用・鉱山用機械、船舶などが増加。

輸入(円ベース、前年同月比)



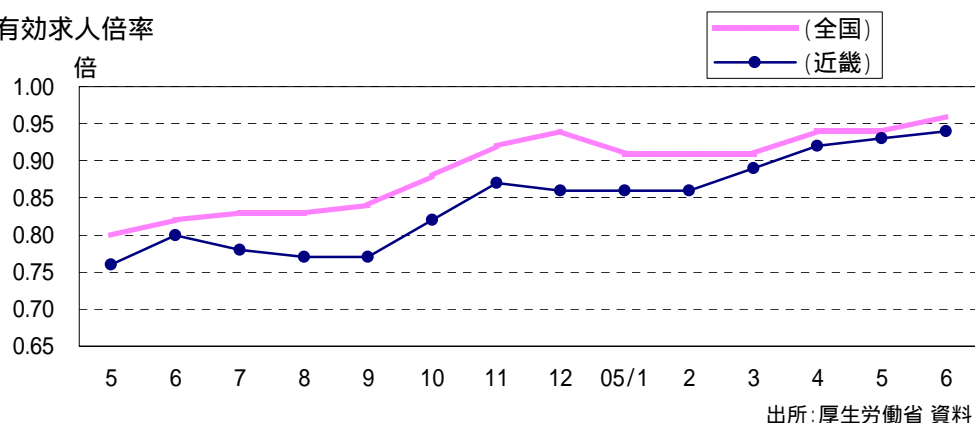
近畿は前年比 9.1%増、17ヶ月連続のプラスとなった。半導体等電子部品、肉類・同調製品などが減少したものの、天然ガス・製造ガス、鉄鋼、科学光学機器、原租油などが増加。

完全失業率 (全国:季節調整値、近畿:原数値)



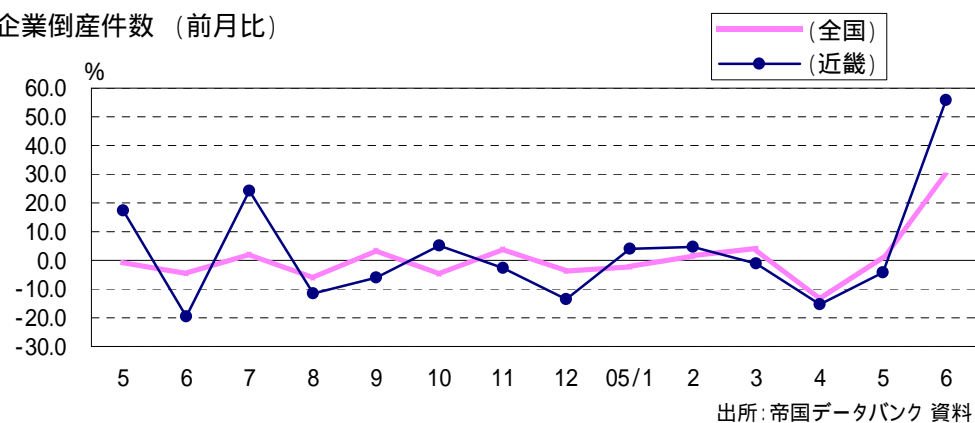
近畿は4.7%で、前年同月に比べ、11ヶ月連続で低下した。厳しさが見られるものの、緩やかに改善している。6ヶ月ぶりに4%台となった。

有効求人倍率



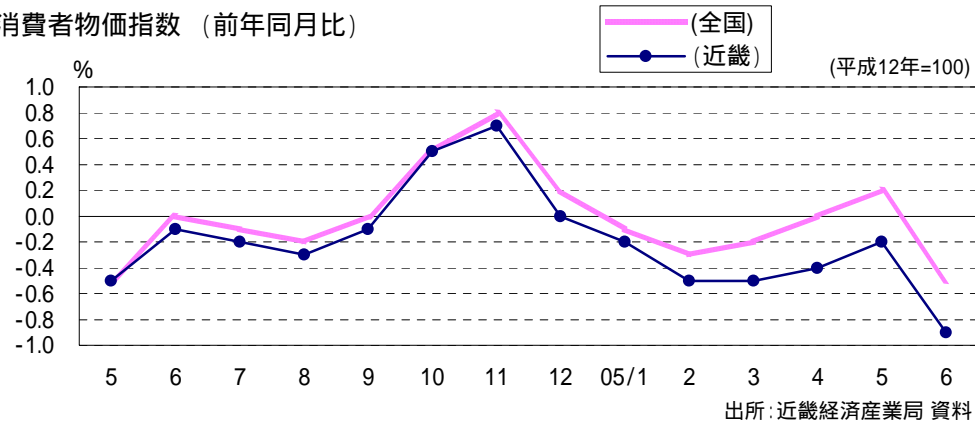
近畿は前月比0.01ポイント上昇の0.94倍で4ヶ月連続の上昇。大阪府では飲食店・宿泊業、サービス業、建設業、情報通信業等の新規求人数が増加した。

企業倒産件数 (前月比)



近畿は215件で前月比55.8%増。主要業種別では、最も構成比の高い建設が大幅に増加。サービス、機械、電機なども増加している。

消費者物価指数 (前年同月比)



近畿は96.7で前年同月比0.9%減。家具・家事用品、教育娯楽などの分野での下落が寄与しているものと思われる。前月比では0.6%減と4ヶ月ぶりに低下している。